

防災訓練を実施

3月14日、巨大地震を想定した防災訓練を実施いたしました。安否メールの一齐返信や避難場所の確認など災害時の行動を確認した他、



災害時に役立つ新聞紙で作るスリッパやアル



スリッパ、コップを作る講習

ミホイルで作るコップの講習も行いました。

今後も防災意識を高める取り組みを積極的に行っていきます。

温州みかん出荷反省会を実施

3月18日、19日の2日間、紀州選果場とゆら集荷場にて温州みかん出荷反省会を実施し、生産者約80人が参加しました。

令和6年産温州みかんの販売実績の報告、令和6年産中晩柑類の販売状況の他、営農指導員から今後の栽培管理についての説明も行いました。



18日 ゆら集荷場

反省会では、参加者から集荷方法の意見・要望が多く挙がり、次年度に活かされるよう努めてまいります。



19日 紀州選果場



紀州地域本部ページ

編集：総務部 組合員課

〒649-1534 印南町印南 2003

TEL.0738-22-2480 (代表) FAX.0738-23-3223 (代表)

メールアドレス：kumiaiinka-600@ja-wakayama.or.jp

JA紀州 閉組式

JA紀州は3月31日に閉組式を行いました。

芝組合長より「新しいJAになりますが、これからも協同の精神を忘れずに、日々努めてください」と挨拶があり、その後、JA紀州での任期を終えた役員に労いの花束が贈られました。JA紀州は平成26年に3JAが合併し、これまで皆さまに支えられてきました。最後には津村専務の挨拶で梅ジュースで乾杯し、11年間の歴史に幕を下ろしました。



JAわかやま紀州地域本部 年度始式

4月1日、各地域本部にて年度始式・辞令式・入組式が開催されました。

紀州地域本部では、まず、JAわかやま紀州地域本部長に就任した阪本浩和地域本部長より挨拶があり、その後、辞令の交付が行われました。

また、紀州地域本部には4人のフレッシュな職員が仲間入りし、それぞれの抱負・意気込みを話しました。それぞれの配属先で業務に取り組めますので、組合員・地域の皆さま、どうぞよろしくお願いたします。



阪本地域本部長の挨拶



新入職員の挨拶

みなべ愛之園こども園でウスイエンドウの収穫体験を実施！

豆部会 みなべいなみ支部はみなべ愛之園こども園で食農活動に取り組んでいます。10月24日に実施したウスイエンドウの播種体験に続き、3月18日には収穫体験が実施されました。部会員のサポートのもと収穫を行い、その後焼きウスイの試食も行いました。試食会は子どもたちの「美味しい！」の声で溢れ大盛り上がりとなりました。



健康クラブinクアハウス白浜

3月25日、クアハウス白浜にて健康クラブの特別企画を開催しました。

初めに、毎月実施している運動講習を行い、その後、強い身体を作るための「免疫力アップ御膳」で昼食をとりました。最後には、お楽しみ会を実施し、ハエたたきゲーム、新聞まきまきゲーム、ポッチャで身体を鍛えると同時に、参加者同士の親睦も深めていただき



ました。お楽しみ会は大盛り上がりとなり、「楽しかった!」、「またやりたい!」と大好評でした。

これからも組合員の健康寿命増進、健康維持のため、このような活動を続けてまいります。

「新聞まきまきゲーム」
足で一番早く巻き取った人が勝ち 俊敏性を鍛えます!



『ギュギュっと和歌山』でニンニクを紹介!

3月27日、由良町にてNHK和歌山放送局の『ギュギュっと和歌山』(4月4日放送)の取材が行われ、日高北部ニンニク部会の瀧野部会長が出演されました。取材の中ではみずみずしさや風味の良さが特徴の「ゆらのニンニク」を説明した他、オススメの食べ方としてカツオのたたきを紹介しました。



アイコ部会 京都で消費宣伝

アイコ部会は3月28日、京都市のいそかわパケット十条店でアイコの消費宣伝を実施しました。試食も実施し、「紀州のアイちゃんは甘くて美味しいです!」と声をかけながらPRを行いました。多くのお客さんにお越しいただき、「美味しい!」、「いつも買っている」などのお声をいただきました。



3月21日、各支店・事業所より64点の食品、飲料水等が集まりフードバンク和歌山に寄付しました。引き続き、組合員、地域の皆様のご協力よろしくお願いいたします。



さつき八朔 今年も上々の出来

紀州選果場では3月下旬から4月中旬にかけてさつき八朔の選果を行い、京阪神を中心に各市場に出荷しました。今年産は着果量が少ないところに、さらに落果も多く出荷量は少なくなりましたが、糖度と酸味のバランスが取れており、上々の仕上がりとなりました。

さつき八朔は霜が降りない温暖な気候を活かし、3月、4月まで樹に成らし、完熟させます。ジューシーな食感が人気で、市場や消費者から高評価をいただいています。



さつき八朔 各地で消費宣伝を実施

4月5日、兵庫県のコープこうべ北口食彩館で柑橘部会の役員とJA職員がさつき八朔をPRしました。子ども、お年寄り、根強い八朔ファンなど様々なお客さんにお越しいただき「美味しい!」、「八朔大好き!」とお声をたくさんいただきました。また、同時に紀州フェアも開催し、紀州うすいなどの特産品も販売しました。他にも、柑橘部会は積極的に八朔やセミノール・甘夏のPRを行っており、イトーヨーカドーアリオ八尾店、阪急西宮ガーデンズ、もりのみやキューズモールでも八朔の消費宣伝を行いました。



フレッシュマート特産品直売所 からのお知らせ

小玉スイカ (ひとりじめ)



冷蔵庫に入る大きさと皮が薄く食味も良い糖度11度以上の小玉スイカ。

小玉スイカ(ひとりじめ)が入荷しました。甘くて冷蔵庫にまるごと入る大きさと大人気!

5月上旬より販売開始!

赤糖房



優糖星



王糖姫



フルーツ感覚で食べられるミニトマトでお子様にも大人気! 今シーズン終了が近くなってきましたので是非。

紀州地域本部管内で栽培された高糖度のミニトマト。

6月下旬頃まで販売!

伝説・豆知識

管内各地域の知られざる伝説や役に立つ豆知識を紹介!

ニンニクの歴史

料理の香りづけに欠かせないニンニクですが、その歴史は非常に古く、5000年以上前から古代エジプトを中心に栽培されていたと言われています。食材として食べられていた他、防腐や消臭などの目的でも使われていたそうです。また、ピラミッド建設の際に、労働者にニンニクが与えられていたという言い伝えもあります。

ニンニクが日本に伝わった正確な時期は不明ですが、「古事記」や「日本書紀」に蒜(ニンニク)について記述があり、平安時代以前から利用されていたと言われています。また、江戸時代には農学者 宮崎安貞が書いた「農業全書」にも栽培方法や効能が記され、日本全国に広く伝わっていきました。



【取材】組合員課 古瀬 聖



5月梅園管理について

いよいよ収穫時期を迎えます。農薬の使用基準は厳守し防除の入力してください。

防除

○すず斑病(いずれか1剤)

スコア顆粒水和剤

(3,000倍/前日まで/3回以内)

デランフロアブル

(2,000倍/14日前まで/2回以内)

オインサイド水和剤80

(800倍/21日前まで/3回以内)

インダーフロアブル

(5,000倍/前日まで/2回以内)

○ハダニ多発園

(葉の裏側にかかるように散布)

マイトコーネフロアブル

(1,500倍/3日前/1回)

ニッソラン水和剤

(3,000倍/7日前/2回)

※多雨が予想される場合はアピオン

IE 1,000倍を混用してください。

※ホウ素供給のため、葉面散布剤

プラムエース・ヨーヒ5 800倍

3〜4回散布してください。
※オインサイド水和剤80は葉斑が残りやすい為、スカッシュユ 2,000倍を加用してください。

コスカシバ対策

スカシバコンL 50本〜100本/10a
県うめ研究所・JAでは、平成21年より試験を実施し、防除効果を確認しています。
10aあたり50本を厳守し、地域全体でコスカシバから梅産地を守りましょう。

ケシキスイ対策

落ち梅を収穫する際、落果した果実が地面と接した状態で長時間放置すると、アカマダラケシキスイの幼虫に食入される危険性が高まります。
食入果実が梅干しになることによる異物混入が大きな問題となりますので、収穫の際、侵入防止対策として、次の点に注意してください。
①落果ウメ収穫には必ずネットを敷く。
②1日1回以上は、必ず拾うなど、拾う回数を増やす。
③薬剤防除により、ケシキスイの密度を減らす。

例1 フォース粒剤(10aあたり

10kg/収穫3日前まで/1回

全面土壌混和)

例2 バリアード顆粒水和剤(4,000倍

/収穫前日まで/2回以内)

④古い果実、傷んだ果実は呼び寄せ

原因となるので、園地に残さない。

⑤拾った梅を30分(45分推奨)水に浸けると、大部分は外に出る。
⑥選果・選別を徹底し、「著しく傷の付いた梅」、「腐敗した梅」、「過熟した梅」は漬け込まない。

※アメリカシロヒトリの被害がある方へ

平成27年度の試験で、フェニックフロアブル(4,000倍/収穫前日まで/2回以内)を5月下旬に散布すれば、約4ヶ月にわたり発生を抑えました。被害のある園地は、最終防除で散布しましょう。



病害虫防除

いよいよ本格的な防除時期となりました。

カイガラムシ類第1世代の防除時期は5月下旬から6月上旬となっていますので適期防除に努めてください。
近年、特にサンホーゼカイガラムシ(アカマルカイガラムシ)の被害が多くなっています。被害が見られる園地では、5月下旬の防除時にモベントフロアブル(2,000倍/収穫7日前まで/3回以内)又はアプロード水和剤(1,000倍/みかん収穫14日前まで/3回以内、晩柑収穫45日前まで/3回以内)で防除してください。
第一世代の幼虫の時期(5月下旬)に幼虫の密度を減らすのが一番効果的です。

『温州みかん・中晩柑』

防除時期	対象病害虫	薬剤	倍数	収穫前日数/使用回数
5月下旬 ~ 6月上旬	黒点病	エムダイファー水和剤 アピオン-E(パラフィン系展着剤) 1,000倍を加用する。	600倍	みかん 60/2 晩柑 90/2
	チャノキイロアザミウマゴ マダラカミキリムシ	アドマイヤーフロアブル	3,000倍	14/3
	カイガラムシ類	モベントフロアブル 又は トランスフォームフロアブル	2,000倍 2,000倍	7/3 1/3
備考	アザミウマ類・サビダニ、ホコリダニにはハチハチフロアブル 2000倍(1/2)も良い。 サンホーゼカイガラムシ若齢幼虫にはアプロード水和剤 1,000倍(みかん 14/3、晩柑 45/3)も良い。			

春に柑橘類の苗木を定植された方は、カミキリムシやミカンハモグリガ(エカキムシ)、アブラムシ類の発生が多くなってきました。防除を月に1回するようにしてください。

着果量の多い樹

着花が多かった樹は多くの養分を

消耗しているため花肥として化成肥料を10aあたりチッソ成分で5kg程度施用してください。また、新梢の充実と緑化促進、樹勢回復としてチッソ系の液肥を葉面散布してください。

摘果剤ターム水溶剤を使用する場合は1,000倍で落としたい部分のみに散布してください。適期は5月下旬頃、第一次生理落の最盛期です。

着花量の少ない樹

着花枝に被さる枝は、日照を遮り生理落果を助長させるため除去してください。

水稻



苗箱処理について

いもち病や紋枯病、ウンカ類、イネミズゾウムシ、コブノメイガ等の発生予防として、スクラム箱粒剤(育苗箱1箱当たり50g/播は種時覆土前)移植当日(1回)を苗箱処理して田植えしてください。

水持ちが悪い水田又は前年、雑草が多かった水田

〇体系処理

・サキドリEW (500ml/10a)
 植代後〜移植7日前まで、又は移植直後〜ノビエ1葉期
 (但し、移植後30日まで/1回)

〇スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策

水稻施肥例

タイプ	品目	荷姿	元肥【袋】
一発型元肥	エムコート5-2-2 (15-12-12)	20kg/袋	2~3
	エムコート4-8-9 (24-8-9)	15kg/袋	2~3

田植え後に使用する主要除草剤(例)(10aあたり)

剤型	品目	倍数	使用基準
粒剤	エンペラー1キロ粒剤	1kg/10a	移植直後〜ノビエ3葉期まで但し収穫60日前まで
ジャンボ剤	エンペラージャンボ	250g/10a	移植直後〜ノビエ3葉期まで但し移植後30日まで

野菜



ミニトマト

・ジャンボたにしくん(1〜2kg/10a)移植後、但し収穫60日前まで/2回以内

日中のハウス内は非常に高温となります。

高温による品質低下が懸念されるので、遮光(遮熱)ネット等の資材などの被覆をすともにも換気を充分取り、ハウス内温度を調節してください。

これから先、収穫作業や誘引、わき目の除去など管理作業が忙しくなりますが、適期収穫を一番に考え作業を行なってください。また、最後

まできつちりと栽培管理を行なうことで品質、収量アップにつながります。

草勢維持

灌水作業

気温の上昇と共に灌水を増加させてください。

灌水は、一度に大量の灌水を行なうと果実の軟化に繋がりますので、少量多灌水を心がけてください。

追肥

草勢をよく観察し、最後まで肥料切れをさせない様に施用してください。

病害虫全般

定期的に摘葉を行い、予防的に薬剤散布を実施してください。

交配修了後のマルハナバチの管理

交配に飼養したセイヨウオオマルハナバチは、外来生物に指定されており、飼養や取り扱いには登録が必要であると共に厳しい制限があります。

交配修了後は、マルハナバチが確実に死亡するまでハウス内で巣ごとビニール袋等に入れ、処分を行なう適正な管理をお願いします。

小玉スイカ

2月定植のハウス栽培や、3月定植のトンネル栽培について5月下旬から収穫が始まる時期となります。適期収穫・出荷作業に努めてください。

また例年、空洞果はクレームの原因となりますので、選果選別の際は充分注意してください。

〔定植〜交配期の管理〕

《広報誌2〜3月号を参照してください。》

〔収穫期の管理〕

①灌水

草勢や土壌水分状態に注意しながら、灌水を行ってください。

収穫予定の10日前頃(ハウス栽培は7日前頃)からは、灌水は控え、果実内容(糖度、食味)の向上に努めてください。

但し、草勢が弱くツルが萎れる場合には少量の灌水を行ない、草勢維持に努めてください。多量の灌水は、糖度の低下や裂果、ツメ入り果の発生原因になる可能性がありますので注意してください。

②草勢維持と日焼け果対策

日中ハウス内及びトンネル内は高温になりますので、温度に注意し換気等を十分行い、草勢維持と果実内容の向上に努めてください。

草勢が弱く、ツルが萎れ、果実がむき出しになる状態では、果実内容の低下と果皮の日焼けが心配されますので、灌水等による草勢維持と遮光ネットの有効利用や果実ヘワラ等を被せるなど日焼け防止対策を施してください。

【病害虫防除】

例年、多くの圃場でアブラムシやアザミウマ、ヨトウムシ類の発生により品質の低下がみられます。病害虫の発生状況を観察して定期的に薬剤散布を行ってください。

また、シロイチモジヨトウについてはヨトウコンSの設置により発生密度の軽減に努めてください。(地域的に取組むことにより、より効果を高めることができます。) 土ぶせ栽培等では、着果後に曇雨天の日が多くなると炭そ病、疫病の発生が心配されますので、必ず予防的に薬剤散布を行ってください。

昨年度、炭そ病や疫病が発生している圃場では、スイカシートなどの栽培資材を交換又は洗浄(消毒)する必要があります。詳しくは、各営農指導員までお問い合わせください。

豆類

●**うすい・キヌサヤ**

気温の上昇に伴い草勢の低下も見られますので、草勢管理に努め適期収穫を行ってください。また、病害虫の発生に注意し、適期防除を行ってください。

栽培が終了した圃場については周辺作物への影響を考え速やかに撤去してください。また、連作障害等出た圃場では、土壌消毒の徹底と、栽培圃場の検討を行ってください。

●**ピーマン**

高温による影響で日焼け果等が発

生し品質が低下しやすくなります。さらに尻腐れ果が出やすい時期となりますので、温度管理と灌水には注意してください。

品質、草勢の維持

果実の肥大が早くなり、着果数が多くなると樹への負担が大きくなりますので、草勢維持のため収穫遅れのないようにするとともに、液肥等を施用してください。

尻腐れ果予防として定期的にカルシウム剤を施用し、品質管理を徹底してください。尚、窒素分の高い液肥を多く施用しすぎると、養分の拮抗作用により、カルシウムの吸収が抑制され尻腐果の発生につながりますので注意してください。

灌水については、蒸散が多くなるため回数を増やし、時間を長くするとともに、畝間の乾きにより根焼けを予防するために、畝間灌水も行いましょう。

病害虫防除

うどんこ病の発生に注意しましょう。樹勢の低下は発生を助長させるため、樹勢維持に努めてください。ハウス内の湿度を保ち、落葉した発病葉は伝染源となるため搬出し処分してください。

また、気温の上昇とともに、害虫の発生が多くなります。異なる系統の薬剤を組み合わせ、効果的な防除に努めましょう。

天敵放飼園

天敵放飼園では、アブラムシ類、ヨトウムシ類、クロテンコナカイガラムシの発生に注意してください。今後は、天敵と害虫のバランスを見ながら、薬剤散布への切り替えのタイミングを判断しましょう。

●**夏秋ナス**

定植後は風で折られないように速やかに仮支柱を立て、テープ等で固定してください。圃場周囲に防風用ソルゴーの栽培または防風ネットを設置してください。

ホコリダニの発生により、成長点の芯止まり症状・萎縮症状が現れます。早期防除・定期散布を心掛けてください。

- **チャノホコリダニ**
- **コテツフロアブル** (2000倍/前日まで/4回以内)
- **モベントフロアブル** (2000倍/前日まで/3回以内)

●**キユウリ**

気温が上がりが晴天が続けば、こまめな灌水を行い、通路にも灌水するようにしてください。高温時にしおれることがあれば、カーテンを閉めるなどして対応してください。また、新芽に光が当たるように葉かきを行い、果実の肥大を促してください。

梅雨の時期に入ると、湿度の高い時期が続くので送風などで除湿するように心がけてください。また、菌核病や灰色かび病、べと病などの病

害も発生しやすいので、防除も定期的に行ってください。

花き類全般



温度や日射量の増加に伴って品質の低下が予想されます。灌水、肥培管理、出荷選別作業には十分に注意してください。また、水揚げ時の花桶の水はこまめに交換し、バクテリアの発生を防いでください。病害虫ではアブラムシ、アザミウマ、ヨトウムシ、コナジラミ、ダニ、灰色かび病、うどんこ病の発生が予想されますので早めの防除の徹底をお願いします。

●**スターチス**

遮光資材でハウスを遮光するとともに換気を十分に行ってください。また、十分に灌水を行い、草勢をみて追肥を行うことで草勢の維持につとめてください。

●**千両**

アザミウマ、ダニ類の発生に注意し、初期防除に努めてください。新芽は葉害が発生しやすいため薬剤の選択には注意し、日中の高温時や薬剤が乾きにくい時間帯での散布には注意してください。また、曇雨天が続く場合は褐斑病などが発生しやすくなるため注意してください。